



海遊館で初めて誕生したハリセンボンのなかま 「スミツキイシガキフグ」の赤ちゃんを展示します

海遊館(大阪市港区)では、2021年4月29日(木・祝)から館内5階で開催中の企画展「ぎゅぎゅっとキュート」内で「スミツキイシガキフグ」の稚魚5尾を展示します。

本種の繁殖成功は国内において2例目で、海遊館では初めてです。そのため、飼育下での繁殖技術は確立されておらず、詳しい発達過程なども判明していません。

今回展示する稚魚は、「クック海峡」水槽を潜水清掃していた飼育員が底砂に紛れていた本種の卵を発見しました。同水槽で混合飼育している他種からの捕食等を防ぐために回収し、バックヤードで他種の繁殖事例を参考に、温度管理や海水の濃度調整など試行錯誤の末、2021年1月15日、孵化に至りました。孵化直後およそ3mmだった体長は、現在、およそ20mmにまで成長し、本種の特徴である体の棘も確認できるようになっています。



今回展示する稚魚(およそ20mm、4月6日撮影)

海遊館では、今後も本種の展示と繁殖を通じた生態解明や魅力を発信していくと共に、種の保存や環境保全に関わる様々な調査研究活動に貢献してまいります。

■展示概要

《場所》 海遊館5階企画展示「ぎゅぎゅっとキュート」

《期間》 2021年4月29日(木・祝)～7月頃(予定)

※生き物の状態により、予告なく変更または中止する場合がございます。

《展示数》 稚魚5尾

《料金》 無料(入館料に含む)

【本件に関するお問い合わせ先】

展示する稚魚を撮影していただけるほか、孵化直後の姿や成魚の写真提供が可能です。

取材をご希望の場合、事前に下記連絡先までご連絡ください。

【連絡先】海遊館 広報チーム 06-6576-5529

■孵化した稚魚について

産卵確認日	孵化日	大きさ	
		孵化時	4月6日時点
2021年1月12日	2021年1月15日	3 mm	20 mm

【担当飼育員のコメント】

孵化後およそ1か月までは成魚のような棘が無く、丸い形態でした。その後、徐々に棘が現れ、孵化後約3か月の現在は成魚のような棘が沢山出てきていますが、体色は全体的に黒色です。

今後も本種の発達過程の解明や飼育下での繁殖技術の確立を目指し、調査研究に努めたいと思います。

【スミツキイシガキフグについて】

英名: Porcupine fish

学名: *allomycterus pilatus*

ニュージーランド近辺の海域などに住むハリセンボンの仲間。英名の一部である Porcupine はヤマアラシを意味しており、その名の通り体表にはうろこが変形してできた棘を多く持つ。

海遊館ではスミツキイシガキフグ(成魚)を、ニュージーランドの海を再現した「クック海峡」水槽にて飼育展示を行っています。



スミツキイシガキフグ(成魚)

【稚魚の成長過程】

	大きさ	現れた特徴	
孵化時(1月15日)	およそ3 mm	半透明な体特徴的。 種類判別できるような特徴はまだ見られない。	
16日目(1月31日)	およそ5 mm	緑がかった丸みのある半透明な体。 本種の特徴である棘は見られない。	
26日目(2月10日)	およそ7 mm	体表が黒くなり、棘が生えてくるので あろう箇所が斑点模様ようになる。	
33日目(2月17日)	およそ10 mm	体表が完全に黒くなり、本種の特徴 である棘が確認できるようになる。	